

【オリコンサルグローバル インドネシア離島でパイロット事業実施】



インドネシア内務省のゲンスリー氏（左）と加藤執行役員

インドネシア離島でパイロット事業実施
オリコンサルグローバル
茨城県つくば市で開かれた第5回日・ASEAN（東南アジア諸国連合）スマートシティ・ネットワークハイレベル会合に、オリエンタルコンサルタンツグローバルの加藤宏承執行役員が登壇。インドネシアの南スラウェシ州マカッサル市で取り組むスマートアイランドプロジェクトについて、同市との具体的な協力事項を取り決める協力覚書（MOU）を近く交わし、パイロット事業を実施することを表明した。

プロジェクトでは、同州の離島に再生可能エネルギーを電源としたコールドチェーン設備を導入することで、離島の電化と水産業の発展を促進

する事業の展開を計画している。5月には同市と事業の業務協力に向けた合意文書（LOI）を結んでいる。

今回のハイレベル会合は、国土交通省とインドネシア内務省が共同議長となり、10月26日に開いた。加藤氏は、同内務省のゲンスリー・シニア分析官とともに登壇し、同社の取り組みを紹介。ゲンスリー氏からも事業の実施に期待が寄せられた。マカッサル市を管轄する同国中央政府の内務省にも公に認知されたことで、国交省の海外スマートシティ支援策「Smart JAMP」案件形成調査からの初の実施案件であり、同社としても初のESG（環境・社会・企業統治）投資案件となる同事業の早期実施に弾みが付いた格好だ。